

伝統行事の受け継ぎ

～時代に応じた指導～

エピソード

まつりの練習に一人の6年生が遅れてきました。

その子は「すみません」と言うわけでもなく、場の流れに乗れず、だらだらとしていました。指導していた年配者が「なんだ、その態度は。それでも最上級生か。昔だったらなぐられているぞ。」と、きつく叱ってしまいました。そのあと、その子どもは一度も来ませんでした。

指導にあたっていた年配者と親たちは、この年の指導を反省し、とにかく、リーダーである6年生に恥をかかせないようにしようと話し合いました。下級生の前で叱ったりせず、遅れて来ても「忙しいのにありがとう」と言うようにしました。練習も行事当日も、子どもが主役であることを意識し、親たちは、陰で支えるようにしました。すると嬉しいことに、教えたこともしっかりと身につけてくれるようになりました。今では「早く6年生になってまつりをきりまわしたい」という「あこがれ」の気持ちを持ち、楽しんでこの行事を守り伝えています。



砺波地方の「夜高」



- みなさんはこれまでにシニア世代と若い親世代間で、文化や伝統を引き継ぐときの意識や考え方の違いを感じたことはありますか。それはどのような場面でしたか？

- 世代間の考え方の違いをどのように調整すれば良いでしょうか？


